

大阪天満宮社報 第79号

てんまつんじん



大阪天満宮 天神講獅子

奉納能「アマビエ」.....	3 頁
諸行事とコロナ対策.....	4 頁
盆梅展と刀剣展.....	5 頁
キャンドルナイト.....	7 頁
御神鏡 研磨御奉仕.....	8 頁
天満宮会館の三部門.....	11 頁

表紙解説

大阪天満宮 天神講獅子

■ 寺子屋の「天神講」

天神祭の数ある講の中でも最大級の講員を誇る「天神講獅子」の起源は、江戸時代の寺子屋にさかのぼります。「読み書きそろばん」を学ぶ寺子屋では、学問の神様・天神様への崇敬の念が強く、特に大阪の寺子屋では、師匠と寺子による「天神講」が普及していました。

「講」とは、本来は寺院において仏典を講読する僧侶たちのグループを指しましたが、のちには伊勢参宮のための伊勢講や、金銭融通のための頼母子講のように、広く志を同じくする集団の一般的呼称となりました。

寺子屋の「天神講」では、『大威徳天神感応経（「天神経」と略す）』を、毎日、あるいは毎月二十五日に講読しました。寺子屋の教科書である『往来物』には「天神講」を付録にしたものがあります。そこには、経文だけではなく、天神画像や、菅公の御歌「我たのむ人を空しくなすならば 天あめが下には名をやながさん」などが添えられています。

こうして、寺子屋において天神様への信仰心を育てられた寺子たちは、毎年の

初天神には、書道の上達を願う書初め「天満書」を行い、また、毎月二十五日には、「天神講」として、近隣の天満宮に参拝したのです。

■ 天神祭の「天神講」

江戸中期には、当宮周辺の寺子屋の「天神講」からスピニアウトしたように、当宮の氏子たちによる「天神講」が生まれ、当宮および天神祭への御奉仕が始まります。これが現在の「天神講獅子」なのです。

史料的には、享保九年（一七二四）五月二十一日に「天神講中」が御簾に懸ける神鏡五面と榊台掛け鏡一面を奉納したという記録が最古のものです（寺井家日記）。

同年の三月二十一日に大阪市中の三分の二を焼き尽くした享保の大化（妙知焼け）が起こり、当宮も類焼していますので、その復興に協力する奉納だったのだでしょう。

天神講獅子には、享保四年（一七一九）創立の伝承があるそうです。大火からわずか二カ月後の奉納が可能であったことを勘案すれば、

大火以前の創立伝承に無理はないようです。

明治期には古美術商仲間が中心の講となっており、明治二十三年（一八九〇）には、伊勢太神楽の神楽師が講の子どもたちに踊りを教え、現在のような「獅子舞」や「傘踊り」「四つ竹」「梵天」などの舞い踊りによる華やかなご奉仕の形が整いました。講員に子どもが多いのは、寺子屋「天神講」の名残なのです。そして平成十八年（二〇〇八）十月には、講名を「天神講獅子」に改めて新たな発展を続けています。

■ 天神講獅子創立三百年

昨年は、講の創立伝承である享保四年から数えれば三百年の佳年にあたりました。そこで、講では「御神鏡」「獅子頭」「煙草分煙器」の当宮への奉納と、『大阪天満宮 天神講獅子三百年祭記念誌』の発行を計画され、五月には帝国ホテル大阪での盛大な「三百年記念式典」を準備されていました。しかし、折からの新型コロナウイルス感染症のため、今年の五月九日に延期されたのです。



疫病退散祈願

奉納能『アマビエ』

散を祈願して奉納されました。

「アマビエ」の作者は、小鼓方である上田敦史師の原作による作品です。江戸時代末頃

冒頭には、狂言方による語り間（あい）があり、事の経緯を述べてアマビエが出現する場面へつな갑니다。

謡 詞章

海神の 救いは波の如くにて
救いは波の如くにて 祈る心に
打ち寄する 音にも真砂の松陰
に 照り添ふ月の汀にて 舞樂
を奏し待ち居たり…久方の久方

の月に輝くその姿 黒髪も浴々と珠の鱗に三つの脚…ご覧なれ
ご覧なれ夢幻に我が姿如何なる
悪魔なりとも恐れを成すも理や
写せや人々よ…

去る二月四日、午後六時から当宮本殿において、観世流能楽師・上野朝義師（朝陽会館館主）以下により、新作能「アマビエ」と舞囃子「老松」が奉納されました。例年は「てんま天神梅まつり」の勸進御能として舞われておりましたが、この度は疫病退

に肥後国（熊本県）に出現したといわれる海神の使い「アマビエ」の神力によって疫病が収まった後の出来事を物語として創作されたものです。神恩に感謝する舞樂が海辺で奏されると、再び「アマビエ」が現れてこれに応えるという設定です。

この他に、舞囃子「老松」も奉納され、本殿は厳肅な空気に包まれておりました。今回の奉納について拝観者は関係者だけが殿内に陪観することとさせて頂きました。



諸行事とコロナ対策

新型コロナウイルス感染症の蔓延が世界的規模に拡大し、わが国においても、多大な影響を与え、現在でも衰えを知らない状況です。

この状況下におきまして、当宮では様々な行事でコロナウイルス感染症対策を行って参りました。

● 七五三詣



本殿には、お祝いのお子様と親御様のみ昇殿いただき、ご家族ごとにパーテーションを設置し「密」を避けてました。

● 正月・初詣

一月中は分散参拝を促すとともに、

警備員を各所に配置し、境内の「露店」は中止して、入場規制を実施しました。



職員はマスク・手袋を着用し、授与所には透明アクリル板を設置しました。また御祈禱は祈願のご本人のみ昇殿していただき、検温・消毒を徹底しました。本殿にはパーテーション設置し「密」を避けてました。

● 天神天神えびす祭



例年の甘酒・御神酒の振る舞いなどは中止し、祭典と吉兆の授与のみ行い、吉兆の授与時間も短縮しました。またご奉仕の方々には、マスクとフェイスシールドを着用していただきました。

● 初天神・梅花祭

毎年の恒例となっていますプロ野球選手や、著名人、地域の方々で行われる本殿からの「福玉まき」、および本殿前で行われる「うそ替え神事」は中止しましたが、氏子の還暦年男女の方々「初天神厄除け特別祈禱」は執り行いました。



● 節分・厄除大祭

厄除大祭は例年、本殿にたくさん

の参拝者が昇殿されますが、本年は境内にご参列いただき、特別舞台を設けて神職が祝詞奏上を行い、悪疫退散も願いました。



以上のように、当宮では様々な行事ごとにきめ細かいコロナ対策を行って参りました。感染防止の周知徹底により参拝者も減り、境内が少し寂しくなっているのは残念なことです。新型コロナウイルス感染症が終熄した暁には、諸行事が安心して賑やかに執り行える日が来ることを職員一同心待ちにしております。

今後の行事につきましても感染対策を実施致しますのでホームページやSNSなどをご確認下さい。

てんま天神梅まつり

盆梅と刀剣展

去る二月十一日から二月二十八日にかけて、『第十八回てんま天神梅まつり』を開催しました。新型コロナウイルスの感染が拡大する中での開催となりましたので、参集殿における「盆梅と刀剣展」だけを実施し、恒例の境内各所の売店や各種イベントは全て中止させて頂きました。

「盆梅と刀剣展」の会場には、「天神画像」とともに天神様の愛梅の御心を偲んでいただきたく、五十鉢を超える盆梅を展示しました。予想された通り、御来場者数は昨年に比べれば減少気味でしたが、それでも、御来場の皆様は、例年以上に、感慨深く春の訪れを感じておられたようにお見受けしました。

特別展示「天光丸」

「盆梅展」に合わせて開催しました「刀剣展」は、今年で三回目となります。初回から特別展示してまいりました壺井八幡宮（羽曳野市壺井）の御神宝「天光丸」を、今年も展示させて頂いていただきました。

「天光丸」は、伯耆国（鳥取県）の刀工・安綱の作刀で、反りのない「直刀」から、反りのある「彎刀」に移行した平安時代中期の作品とされており、国の重要美術品に指定されています。



江戸時代後期の『河内名所図会』（一八〇一年刊）には、「天光丸」の由来が次のように記されています。

伯耆国安太夫、官名左馬頭安綱作。鬼切丸と同鉄をもつて作りし雌雄の御太刀なり。多田満仲より相伝ありて、八幡太郎出陣の時、佩せられ、朝敵を鎮めたまうなり。

すなわち「天光丸」は、同じく安綱の作とされる「鬼切丸」と「雌雄（一対）の御太刀」であり、もともとは多田源氏の祖・多田満仲が佩用していたと思っております。

だが、のちに子孫の八幡太郎（源義家）の佩刀になったというのです。ちなみに「鬼切丸」は、現在、北野天満宮の所蔵となっています。

繁昌亭とコラボ

なお今年は、コロナ禍における集客の工夫として、当宮北側の落語の定席「天満天神繁昌亭」から申し出を受けて、繁昌亭と梅まつりの共通の割引チケットを発売しました。



天満宮スカウト 歩みと日誌

昨年来のコロナ禍により、今年で五十六周年を迎える天満宮スカウトも、未だかつてない経験に直面しています。

小学三年で入団し、半世紀以上のスカウト生活を過ごしてきた私にとっても、このような活動の制限・自粛には戸惑いを隠せません。

各隊リーダーは、スカウトのため何が出来るかを模索しながら、在宅での課題を課し、また集会も時間の短縮を図ってきました。

しかし、本来のスカウティングの楽しみは、仲間と集まりワイワイ言いながら料理を作り、狭いテントの中で様々な話題で盛り上がることなのです。それが出来ないことは、本当に辛く苦しいのですが、初代ボーイ隊長の寺井種伯名誉宮司をはじめ、歴代指導者・団委員の諸先輩方から学んだ天満宮スカウト精神でこの禍を乗り切る覚悟でおります。

それでも、この四月には新しいスカウト達が入団進しました。後藤新平初代総長の「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そ

して報いを求めぬよう」との言葉を今一度肝に銘じ勤しんで参ります。
(ボーイ隊・カプ隊副長 三宅隆)



《活動日誌》

◆天満宮スカウト合同行事

十二月の育成会餅つき大会、一月の元始祭参列・新年参拝、及び互例会はコロナ禍にて中止。

四月 入団上進式。

◆ボーイスカウト大阪九十八団

八月 各隊の夏期野営・舎営を中止。
ビーバー隊 水遊び(鶴見緑地)。カプ隊 カプブック履修。ボーイ隊 ハイイク(四条畷)。ベンチャー隊 個

人プログラム作成。ローバー隊 各隊活動支援。

九月 ビーバー隊 ハイイク(天保山)。カプ隊 手作りパター大会。

ボーイ隊 ロープワーク・構築。ベンチャー隊 各隊活動支援。ローバー隊 各隊活動支援。

十月 ビーバー隊 みかん狩り(上ノ太子)。カプ隊 一泊キャンプ(天満宮内)。ボーイ隊 計測・救急、倉庫整理。

◎星山スカウト菊章修得
ベンチャー隊 各隊活動支援。ローバー隊 各隊活動支援。

十一月 ビーバー隊 ハイイク(四条畷)。カプ隊 五低山ハイイク。ボーイ隊 野外料理、テント設営。ベンチャー隊 各隊活動支援。

◎西川スカウト菊章修得
ローバー隊 各隊活動支援。

十二月・一月・二月 各隊活動自粛、在宅プログラム。

ビーバー隊 工作。カプ隊 カプブック・ロープワーク。ボーイ隊 歩測・野帳(駅・天満宮)。ベンチャー隊 個人プロジェクト。ローバー隊 個人プロジェクト。

三月 ビーバー隊 工作、お別れ会。カプ隊 ハイイク(中之島東端・西端)。ボーイ隊 ハイイク(ろんど園地)

◎吉川スカウト菊章修得
ベンチャー隊 各隊活動支援。ローバー隊 各隊活動支援。

◆ガールスカウト大阪府八十二団
八月・九月 各隊活動自粛、在宅プログラム。

ブラウニー・ジュニア部門 シッタポン作り、ロープワーク、キャラクター描き。シニア・レンジャー部門 年間計画、「おきて」の理解、キャンプの献立。

十月 ブラウニー部門 天満宮でお芋掘り。ジュニア・シニア・レンジャー部門 お芋掘り手伝い、梅プロジェクト。

十一月 各部門 メッセージカード作り、中之島にて活動。

十二月・一月・二月 各部門活動自粛、在宅プログラム。

ブラウニー部門 ひなまつりぬりえ。ジュニア部門 マスクケース作り。シニア・レンジャー部門 ワールドシンキングデイ(世界の問題を考える)。

三月 各部門 バッジ授与式、フライアップ式。

◆大阪天満宮スカウトは随時入団募集をしています。お問い合わせは当宮社務所までお願いいたします。

「天神橋キャンドルナイト」は、新型コロナウイルス感染症の悪疫退散を願って、医療従事者への寄付金を呼びかけ、地域の活性化や振興につなげようと企画されたものです。当日は、一丁目商店街の照明を全て消し、LEDキャンドル五百本を両端に配置して、川に見立てた「キャンドルリバー」を浮かび上げながら、商店街の各所にメイン装飾を飾りました。

昨年十二月十一・十二日の二日間、天神橋一丁目振興町会が「天神橋キャンドルナイト」を開催しました。当宮の参詣道でもある天神橋筋商店街は、全長二・六kmの「日本一長い商店街」として知られていますが、その南端の約三百mに当たるのが一丁目商店街です。



また、オープニングイベントでは、当宮境内にもLEDキャンドルが並べられたなか、バイオリン、ハープが演奏され、幻想的なひとときを地域の皆様と過ごすことが出来ました。



御奉納

「天神祭扇子集」一巻

去る三月二十八日、西宮市の埜口健三様から、天神祭を描いた扇面画十八点を軸装された「天神祭扇子集」一巻を御奉納いただきました。

埜口様はかつて当宮の隣地にお住まいなさっておれたことから、昭和初期の大変稀少な扇面をご所蔵されていたのだそうです。

当宮の宝物として
末永く大切に収蔵させていただきます。



第二十四回

あの人もこの人も

御神鏡 研磨御奉仕

坪庭家三代

御本殿には五面の御神鏡が掛けられており、いつ見ても曇りなく美しい輝きを保っています。

これは正月前と天神祭前の年二回必ず研磨されているからです。この研磨作業を永年にわたってご奉仕いただいておりますのは、東大阪市の坪庭秀實様（昭和十八年生）とご子息の正和様（昭和四十七年生）です。

研磨の御奉仕は先代の元次郎様から始まったもので、昭和三十年ごろに遡ります。当時、元次郎様は当宮境内の清掃奉仕を始められ、その後昭和三十八年に青銅製の臥牛像を奉納されています。

その後、昭和四十年に御神鏡の研磨奉仕を申し出られ、爾来今日にいたるまでに、平成九年から秀實様と父子で御奉仕され、平成十一年から十三年まではお孫様の正和様と三代お揃いで御奉仕いただきました。元次郎様ご逝去の後も、秀實・正和様により欠かさずご奉仕を頂いたので

ております。

同家からは、この間にも御本社御屋根の修復奉納や、平成三年には御神鏡五面の銀面を、平成十四年の千百年式年大祭には御本殿御神鏡（純銀製）五面の他、数々の御奉納を賜っております。父子三代にわたる奉仕の誠が受け継がれていることに只々感服するばかりです。

この御鏡の輝きが大神威の広大無辺なるを末長く示すものと信じてやみません。

朝ごとに おかふ鏡の 曇りなく
あらまほしきは 心なりけり

昭憲皇太后 御歌



広報室だより

フェイスブックでの告知 コロナ禍における初詣の混雑緩和のために、JR大阪天満宮駅・大阪メトロ南森町駅の御協力を得て、公式フェイスブックで、境内および駅構内の混雑状況をお知らせしました（年末から約二時間ごとに三日間）。

皆様のご協力もあって、例年のような大混雑は避けられ「参拝の前に状況が判かり助かった」との参詣者様からのコメントも数件いただきました。

コロナ禍が終わった後にも、初詣情報の在り方に役立たせたいと思っています。

史跡探訪カレンダー 当宮では毎年オリジナルのカレンダーを作成しています。境内の風景を始め、石碑や灯籠、建物の文様などのポイント写真を載せ、その場所を探していただくことで、少しでも本殿前の混雑が緩和されればという試みでした。

産経新聞にも掲載され、その読者プレゼントにも予想を上回る多数の応募があったため、当宮の巫女による抽選を行うほどでした。

大阪天満宮 初詣へ秘策
境内巡るクイズで3密回避

コロナ禍の今年は、趣向を変えてクイズ

形式の「境内史跡探訪」をテーマにした。境内の各地の臥牛像

産経新聞にも掲載され、その読者プレゼントにも予想を上回る多数の応募があったため、当宮の巫女による抽選を行うほどでした。



にいにいと七五三

かたやまあや

(代筆じいじ、仲野徹)

去年の十一月、兄ちゃんのさとし(にいにいとと呼んでいます)と七五三のお参りに大阪天満宮へ行きました。数えでにいにいが五歳、わたしが三歳でした。

まずは写真館へ。ここは、ふたりとも初宮参りの時にお世話になったお店です。わたしはピンクの着物を選びました。にいにいは地味な着物ですが、すぐに「鬼滅の刃」の竈門炭治郎の気持ちになったみたいです。にいにいは、前の日に右頬に小さなケガをして絆創膏を貼ったままでした。写真館の人が「絆創膏を取ったらどうですか。あとから修正はできませんから」と言ってくさいました。けど、にいにいはイヤだと言った聞きません。後からかわいらしい写真が送られてきたのですが、にいにいの右頬にはやつぱり絆創膏がしっかりと写っていました。

天満宮では、じいじと、二人のばあばが待つていてくれました。緊急事態宣言(にいにいは「きんきゅうじたいちえんげん」と言いますが、何のことかわかりません)は出ていませんでしたが、なんでも「密」を避けるということで、いろんな工夫がされていました。

いつもと違う通路が作られてまし

たし、本殿はパーティションで区切られていました。付き添いは三人までということでしたが、うちの家はお参りが二人で、付き添いとして計五人でしたから、セーフでした。

ご祈祷は、名前が呼ばれてるところ以外、なにもわかりませんでした。が、終わってから、千歳飴とかが入っている紙の袋と、風船をもらえてうれしかったです。

本殿の横に「祝七五三」の看板と写真撮影舞台があつたので、ふたりで撮ってもらいました。写真を見てもらったらわかりますけど、にいにいは、えらくいちびつて、風船についた針金をくわえてぶんぶん振り回し続けてました。こんな炭治郎は絶対にいてないと思いますけど…。次の人も待つてるのに、「こんな漫才みたいな気持ちになつてたの、写真からわかつてもらえますか。」



大阪天満宮献詠

風月社

令和三年 上半期秀歌

わたり鳥あはたたしけにゆくはての

雲のはさまの秋のふかまり

幹事 佐野 秀子

ひかへめを信じ従ふもののふの

魂にて萩の花散る

幹事 松村 暁二

紅梅の蕾ふくらむあかるさに

目白きたりて春の庭はや

東大阪市 中山 里江

昨夜^{よべ}の露光る水辺に赤蜻蛉

色なき風にそよと揺れをり

神戸市 鈴木 敬子

年の暮心せはしく札納む

三密^{えやみ}さけて疫病^{えやみ}を払ふ

大阪市 大北 滋保

松を主に添へは南天菊の花

心晴れやか初春をまつ

大阪市 中瀬 央子

子午線を越えて群れ飛ぶ渡り鳥

絆の力いづくに秘めしや

大阪市 家治 綾子

うす紅のなてしこの花咲き競い

やわき心のあの頃思ふ

東大阪市 乾 恵子

思ひ出に二人の世界と記したる

父との旅の湯河原の石

東大阪市 北岡 由紀子

ふるさとの桜島山絵にかきし

思ひ出めぐり幼き日々を

大阪市 伊藤 涼子

与那国の馬の草はむ音きこゆ波

音しつかあかとき岬

八尾市 南口 一二美

門松を立てて迎ふる丑の年

ちはやぶる神に病祓はむ

大阪市 佐村 昌哉

西風の中より渡る雁が音の

一声かなし芦のはなかげ

長野県 坂井田 礼子

夏雲のそびえ立ち見ゆ岬より

白良の浜に寄る細波

瀬戸市 柳野 等

社務所 電話番号より

よくあるお問い合わせ

『お祝い事とお赤飯』

近年は家族の誕生日などにケーキを囲むこともよくありますが、少し前まではお母さんが炊いた赤飯が食卓に上がってお祝いすることが普通だったように思います。

皆さんは「赤はめでたいから」くらいに思っておられるようですので少し調べてみました。

明治ごろまでは、白米に小豆をまぜて炊いた「赤飯」と、餅米を小豆の煮汁で染めてから蒸した「おこわ」とは別物でしたが、いまでは混同してどちらも「おこわ」と呼ぶこともあるようです。

およそ御祝い事（吉事）に用いますが、凶事に用いる地方もあるようです。赤は邪気を払うという説もあり、当宮の御迎え人形も、衣装のどこかに必ず赤色を使用しています。

奈良や京都の古い神社の特殊な神饌にも赤飯がありますので、その起源は古いと思われます。赤米の最古



の記録は、飛鳥京跡の遺構から出土した木簡にあります。平城京の遺跡から出土した木簡には丹波・丹後・但馬から輸送されたことが記述されています。正倉院文書の『大倭国正税帳』『尾張国正税帳』にも地方から赤米が納められた記録があるそうです。

日本に稲作が伝来したころは白米と赤米があつて、赤米の栄養価は高いのですが、味は白米に劣ります、次第に淘汰されて明治ごろには白米の栽培がほとんどになつてしまいました。

赤飯の起源は赤米ですが、今は白米で作るのが普通になつています。しかし、いくつかの神社では現在も神事用として赤米を栽培されていますし、古代米として新たに栽培され流通するようになっています。

お祝い事があれば家族そろつてお赤飯を頂くのもよいかと思えます。あるいは、「おうちで御飯」が推奨されていますので、疫病退散を祈つてお赤飯を頂いてみてはいかがでしょうか。

浪速菅廟吟社詠草

雪稜 松村曉二撰

九月課題 早秋即事

玄齋 佐村昌哉 大阪市

新涼秋色露華滋 落葉梧桐最得知

漸洗暑威殘雨後 亂蛩聲韻動情時

《訓読》新涼の秋色露華滋し、落葉の梧桐最も知るを得。漸く暑威を洗う残雨の後、乱蛩の声韻情を動かす時

《通釈》夏が過ぎて初めて涼しさを感じ露がおり、桐の葉がさがけて散れば秋が来たなとする。暑さをあらう名残の雨、秋の虫が私の情感を動かすのである。

十一月席題 晩秋郷里

鵬城 北野修司 大阪市

久歸秋杪里 籬菊歷霜粧

枕上呈衰母 開顔一朵香

《訓読》久しく帰る秋杪の里、籬菊霜を歴て粧う。枕上衰母に呈せば、顔を開く一朵の香に

《通釈》久しぶりに晩秋の故郷へかえれば、垣根の菊が霜をへて美しい。

寝たきりの母親に一枝を差し上げれば、菊の香りににこっと微笑まれた。

十二月 歳除一作

粕春 中島結樹 横浜市

夜色山亭暖 窮陰霜鬢侵

功名浮世夢 風月古人心

《訓読》夜色山亭暖かく窮陰霜鬢侵す。功名浮世の夢、風月古人の心。

《通釈》除夜の我が家は暖かく、年窮まつて、吾髪は霜を増す。功名心は浮き世の夢、風月を楽しむ我も古人の心になろうとしている。

令和三年一月 年頭感懷

苔菴 揚田崇徳 三原市

雪解年頭淑氣催 欲尋花影醉徘徊

豈圖數刻空歸舍 庭際迎吾一樹梅

《訓読》雪解け年頭淑氣催し花影を尋ねんと欲し酔いて徘徊す。豈に図らんや数刻空しく家に帰れば庭際吾を迎う一樹の梅

《通釈》雪がとけて年の初めの春めきて、探梅でもするかと酒を飲みつつ歩いてみるも想いとはうらはらに梅は咲いていない。ガツカリして家に帰ると庭先の梅が私を迎えてくれた。

天満宮会館の三部門



よび会館の施設などをご案内し、様々なプランをご提案するなど、挙式の一部始終をサポートさせていただく部門です。

この部門で最も心掛けておりますのは、「プランナーの知識」と「接客マナー」です。プランナーの知識については、通常の総合結婚式場とは異なり、神社施設であることを踏まえて、天満宮と緊密な連携をとりながら、神社行事への造詣も深めております。このことによって、一味違った質の高いモチベーションを持つてご奉仕させて頂いております。

接客マナーについても、スーパースーパーバイザーが、その都度プランナーの接客の様子をチェックし、適切な指導を行い、キメ細かい心のこもったご奉仕ができますよう心掛けております。

昨年夏に会館のハード面を充実させましたが、それとともにスタッフの成長により、ハード・ソフト両面での受け入れ態勢も整っていると自負しております。

もちろん、結婚披露宴以外の一般宴会のご用命も賜っております。幸いに氏子・崇敬者の皆様を中心にご利用いただき、ご好評をいただいております。

✧ マイス部門

法人向けの宴会の営業の部門です。専任の担当者を配属して、企業廻りをしますが、残念ながら、新型コロナウイルス感染症の広がりのため現在は休止しています。

そこで、コロナ禍においても皆様のお役に立てるようにと思索し、お持ち帰り用の折詰弁当「大阪天満宮御膳」を企画しました。

参拝後にお食事を開きにくい皆様に、御家庭で安心して贅沢な気分を味わって頂くよう考えたものです。会館のシェフと料理長が腕によりをかけて、和食と洋食のコラボレーション・メニューは自慢の一品に仕上がりました。

✧ フォト婚部門

「大阪天満宮フォトプラン」の部門です。コ



ロナ禍のもとでは「結婚式や披露宴は行わないが、せめて記念写真だけでも」という声もあり、また親族の列席は不安なので、新郎新婦の二人だけで結婚式を挙げられる方もいらっしゃると思います。

境内の清浄な空間での撮影を通じて、神社への親しみが芽生え、数年後の初詣や七五三詣などの「人生儀礼」にお詣りいただければ嬉しく思っています。

これからも、ブライダル部門では「喜びの声を」、マイス部門では「利便性の良さを」、フォト婚部門では「親しみを持てたとの声」をお聞かせいただけるよう、スタッフ一同邁進して行く所存でございます。今後とも皆様方のお力添えを宜しくお願い申し上げます。

(総支配人 沖圭司)



人事任免

〈新任〉



権禰宜

江戸 英一郎

(島頭天満宮より)



出仕

須山理絵子
(巫女より)



出仕

白杵浩秀



出仕

成田采弥佳



出仕

為我井 柚衣



出仕

松尾 真奈



事務職

岩田 宗大



事務職

仲 真矢



巫女

唯仁美



巫女

大嶋 麻耶



巫女

小仲 あかり

令和三年四月一日付

〈退任〉

巫女 石田麻理阿

令和二年十月三十日付

出仕 南條竜太

巫女 吉村玲南

令和三年三月三十一日付

御報告

今年の天神祭について

コロナ禍により、昨年の天神祭は、本殿における神事だけに縮小して斎行しました。陸渡御・船渡御を楽しみにされていた皆様には申し訳ない限りでした。その代わりという訳ではありませんが、常日頃はご覧いただけない神事の一部始終をWeb配信させて頂きましたところ、天神祭の中心に神事があることを再認識できたという嬉しいお声も頂きました。さて、今年の天神祭については、可能な限り対策を講じた上で、本殿等における神事は従前同様に厳粛に斎行します。陸渡御は路程を大幅に短縮し、行列の規模はおよそ半分以上になる見込みです、船渡御は一、二船程度で航路も短時間になるよう調整しています。また奉納花火は実施しない方向で検討しております。さらに社会情勢が変化するようであれば計画もさらに縮小される可能性もあります。そして全ての神事、行事は関係者のみで斎行させていただ

き、一般拝観者の見物は控えていただきますようお願いする予定です。なお、最終決定につきましては、五月末ころには、当宮ホームページ他でお知らせいたします。

編集後記

○当社は、これまで年二回の発行(正月・七月)でしたが、今年から正月の新年号外と、四月号・九月号の三回発行に変更しました。

○当宮では、昨年九月から今年四月にかけて十名もの職員が新採用されました。まだまだ不慣れなため、なにかと至らないこともあるかと存じますが、今しばらく温かい目で見守っていただければと思います。

○連載中の名誉宮司の回顧録は、都合により休載しました。

大阪天満宮社報

てんまてんじん 第79号

令和3年4月20日印刷

令和3年4月25日発行

発行人 寺井 種治

発行所 大阪天満宮社務所

〒530 0041 大阪市北区天神橋2-1-8

TEL 06-6353-0025

印刷所 木村印刷株式会社